



日本フィル&サントリーホール

にじくら

トークと笑顔と、音楽と

第4回

2024年5月2日(木)

Japan Philharmonic Orchestra and Suntory Hall

Weekday Matinee Concert Series No. 4



第4回

Japan Philharmonic Orchestra and Suntory Hall
Weekday Matinee Concert Series No. 4

指揮: 太田 弦
Gen Ohta, Conductor

ピアノ: 上原彩子
Ayako Uehara, Piano

ナビゲーター: 高橋克典
Katsunori Takahashi, Navigator

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

コンサートマスター: 木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]
Masayuki Kino, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: 門脇大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]
Hiroki Kadowaki, JPO Solo Violoncello

日時: 2024年5月2日(木) 14:00開演 Thursday, May 2, 2024 at 14:00
会場: サントリーホール 大ホール Suntory Hall, Main Hall
主催: 日本フィルハーモニー交響楽団 / サントリーホール

13:40~ オルガン・プレコンサート

ラフマニノフ(ヴィエルヌ 編曲): 前奏曲 嬰ハ短調 作品3-2「鐘」
Sergei Rachmaninoff (arr. Louis Vierne): Prelude in C-sharp Minor, Op. 3, No. 2

J. S. バッハ: 前奏曲とフーガ ホ長調 BWV 566 より フーガ
Johann Sebastian Bach: Fugue from Prelude and Fugue in E Major, BWV 566

オルガン: 石川 = マンジョル 優歌
Yuka Ishikawa-Mangeol, Organ

東京藝術大学修士課程、フランス・トゥールーズ音楽院Perfectionnement課程修了。同音楽院クラヴサン科、ピアノ伴奏科、エクリチュール科にてディプロマ取得。2018年ピエール・ド・マンシクール国際オルガンコンクール セミファイナリスト。22年8月まで、トゥールーズにてクロワ・ドラード教会主任オルガニストを務めた。

チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第3番 変ホ長調 作品75

Pyotr Ilyich Tchaikovsky:
Piano Concerto No. 3 in E-flat Major, Op. 75

チャイコフスキー(上原彩子 編曲): バレエ音楽『くるみ割り人形』より「花のワルツ」(ソロ・ピアノ用編曲)

Pyotr Ilyich Tchaikovsky (arr. Ayako Uehara):
“Waltz of the Flowers” from *The Nutcracker* (arr. for Piano Solo)

ピアノ: 上原彩子 Ayako Uehara, Piano

————— 休憩 Intermission —————

モーツァルト: 交響曲第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

Wolfgang Amadeus Mozart:
Symphony No. 41 in C Major, K. 551, “Jupiter”

- I. Allegro vivace
- II. Andante cantabile
- III. Menuetto: Allegretto
- IV. Molto allegro



指揮：太田 弦

Gen Ohta, Conductor

1994年北海道札幌市に生まれる。幼少の頃より、チェロ、ピアノを学ぶ。東京藝術大学音楽学部指揮科を首席で卒業。学内にて安宅賞、同声会賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞。同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程を卒業。2015年第17回東京国際音楽コンクール(指揮)で第2位ならびに聴衆賞を受賞。指揮を尾高忠明、高関健に師事。これまでに読売日本交響楽団、札幌交響楽団などを指揮、今後さらなる活躍が期待される若手指揮者筆頭。23年4月より仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者に、24年4月より九州交響楽団首席指揮者に就任。第30回(2022年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。21年2月、オクタヴィア・レコードより『交響曲第8(9)番 ハ長調 D944「ザ・グレート」(新日本フィルハーモニー交響楽団公演ライブ収録)』をリリース。



ナビゲーター：高橋克典

Katsunori Takahashi, Navigator

神奈川県横浜市生まれ。1993年『抱きしめたい』で歌手デビュー。俳優として「サラリーマン金太郎」「特命係長 只野仁」などのヒット作を得る。近年では2020年大河ドラマ「麒麟がくる」、22年秋NHK朝ドラ「舞いあがれ」に出演。24年1月クールNHK「正直不動産2」、フジテレビ系「大奥」に出演。出演映画として22年5月『20歳のソウル』、22年8月『バイオレンスアクション』、24年2月『劇場版マダー★ミステリー 探偵・班目瑞男の事件簿 鬼灯村伝説 呪いの血』が公開。BSテレビ東京「ワタシが日本に住む理由」レギュラー出演、bayfm78「GROOVIN' ON THE ROAD」ではメインパーソナリティとしてレギュラー出演中。



ピアノ：上原彩子

Ayako Uehara, Piano

第12回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門において、女性として、また日本人として史上初めての第1位を獲得。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。これまでに、ヤノフスキ、ノセダ、ルイージ、ラザレフ、ペトレンコ、小澤征爾、小林研一郎、尾高忠明、飯森範親などの指揮のもと、国内外のオーケストラのソリストとしての共演も多い。2004年12月にはデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト・ソリストに選ばれた。CDはEMIクラシックスから3枚がワールドワイドで発売されたほか、キングレコードより『ラフマニノフ:13の前奏曲 作品32』『上原彩子のモーツァルト&チャイコフスキー』『デビュー20周年記念コンサート・ライブ盤』など4枚がリリースされている。東京藝術大学音楽学部早期教育リサーチセンター准教授。令和4年度文化庁長官表彰受賞。



日本フィルハーモニー交響楽団

Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立。「オーケストラ・コンサート」「エデュケーション・プログラム」「リージョナル・アクティビティ(地域活動)」という三つの柱に加え、2011年の東日本大震災以来「被災地に音楽を」届ける活動を継続している。これらの活動は高い評価を受け、第16回後藤新平賞を受賞。23年9月より首席指揮者にカーチン・ウォンを迎え、桂冠名誉指揮者小林研一郎、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)広上淳一という指揮者陣を中心に年間150回を超えるオーケストラ公演を行う。26年の70周年に向け、芸術性と社会性を両輪とし、「温かさ」「人に寄り添う」土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指している。1994年に杉並区と友好提携を結び、本拠地とする。毎週水曜日22時54分～23時、BS朝日「Welcomeクラシック」出演中。

公式ホームページ japanphil.or.jp 公式X(Twitter)@Japanphil

プログラム・ノート

鄭 理耀

■ チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第3番 変ホ長調 作品75

ロシアの作曲家、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840~93)の3つ目のピアノ協奏曲は、いくらか複雑な成立過程を辿っている。この作品はもともと、1891~92年に交響曲として構想されていた。チャイコフスキーは、人間の生と死を描く「人生」と題した変ホ長調の交響曲を計画し、全曲のスケッチを終えていたが、途中で断念することとなる。この交響曲をピアノ協奏曲に転用する作業に取り掛かったのは93年6月で、死の直前の10月半ばまで創作は続いた。チャイコフスキーは当初、本作を3つの楽章で構成する予定であったが、そのあまりの長さ、単一楽章の作品として仕上げることにしたようである。死の翌年、作品75として出版された。なお、スケッチの形で残されていた2つの楽章は、弟子のセルゲイ・タネーエフによって仕上げられ、97年に『アンダンテとフィナーレ』作品79として出版された。

作品は、ファゴットによる主題提示で始まる。提示部では、快活な第1主題、叙情的で優美な第2主題、躍動感あふれる民族舞曲風の第3主題が現れる。展開部ではピアノがカデンツァを披露し、再現部の後、生命力に満ちた華麗なコーダによって力強く曲が閉じられる。

■ チャイコフスキー(上原彩子 編曲)：
バレエ音楽『くるみ割り人形』より「花のワルツ」(ソロ・ピアノ用編曲)

チャイコフスキーの三大バレエ、『白鳥の湖』『眠れる森の美女』『くるみ割り人形』は、今日においても絶大な人気を誇り、世界中のバレエ団がこぞって上演を繰り返す。『くるみ割り人形』は、サンクトペテルブルクのマリインスキー劇場からの依頼で、1891~92年に書かれたチャイコフスキー最後のバレエ音楽である。物語はドイツの作家 E. T. A. ホフマンの童話『くるみ割り人形とネズミ国王』に基づいており、同劇場の首席振付師 プティパが台本化した。物語の舞台はクリスマス・イヴ。少女クララがプレゼントされた

くるみ割り人形は、夢の中で王子の姿へと変身する。王子はネズミとの戦いで窮地を救ってくれたクララをお菓子の国へと招待し、二人は様々な精による踊りの歓迎を受け、楽しいひとときを過ごす、というあらすじである。

「花のワルツ」は、お菓子の国の女王である金平糖の精の侍女達が踊る、華やかで美しいワルツ。非常に優雅で幻想的であるものの、反復が多い点は否めない。上原は、ピアノという楽器の特性である広い音域を活かし、聴き手を飽きさせないよう変化に富んだアレンジに作り上げている。管弦楽版とは一味違った、彩り豊かでピアノスティックな曲想をお楽しみ頂きたい。

■ モーツァルト：交響曲第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~91)の「三大交響曲(第39~41番)」は、死の3年前の1788年夏、わずか1ヶ月半の間に立て続けに作曲された。短期間で集中的に交響曲を完成させた理由については諸説あり、イギリスやウィーンでの演奏会のため、もしくは三曲セットの曲集として出版するためではないかと考えられている。

第41番はモーツァルト最後の交響曲で、古典派交響曲の最高傑作とも言われる。「ジュピター」とは、ギリシャ神話の最高神ゼウスのこと。モーツァルト自身によるものではなく、ハイドンをロンドンに招いたことで知られる興行師 J. P. ザロモンの命名であるが、壮大で輝かしい本作にふさわしい愛称である。

第1楽章は、主音(D)を大胆に強調する開始が印象的なソナタ形式。力強くも優しい第1主題と、柔和な第2主題が提示される。第2楽章は、弱音器付きの弦楽器が用いられる流麗で天上的な緩徐楽章。典雅なメヌエットの第3楽章では、なだらかな半音階の下降が繰り返される。終楽章のソナタ形式では、冒頭の「ジュピター音型(ド・レ・ファ・ミ)」をもとに、複数の素材と声部が緻密に絡み合いながら推進力をもって展開する。フーガ書法を取り入れた圧巻のフィナーレである。

(ちよんりよ・音楽学)

有料オンライン配信のお知らせ

本日のコンサートのライブ配信映像を、リピート配信でご覧いただけます。
好きな時間と場所で何度でもお楽しみください。

視聴券 ¥2,200

視聴期間 2024年5月3日(金)13時30分~5月8日(水)23時

※デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットびあ)、イープラスでの取り扱い



デジタルサントリーホール配信公演ページの「WATCH」ボタンより、視聴券購入画面にお進みいただけます。

チケット優待サービス

ご利用当日のサントリーホールのチケット(半券)をアークヒルズのサービス加盟店舗でお見せいただくと、割引や限定メニューなどおトクな優待をご利用いただけます。



平日2時のクラシックコンサート

次回のお知らせ 先行発売:5月22日(水)10時~28日(火)、一般発売:5月29日(水)~

指揮: 広上 淳一
ヴァイオリン: 前橋 汀子
ナビゲーター: 高橋 克典

日本フィルハーモニー交響楽団
モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲第5番「トルコ風」
大河ドラマ&映像作品セレクション
坂本隆一: 「八重の桜」/ 林光: 「花神」/ 吉俣良: 「篤姫」
エンニオ・モリコーネ: 映画「ニュー・シネマパラダイス」
ジョン・ウィリアムズ: 映画「シンドラーのリスト」
菅野祐悟「軍師官兵衛」/ ジョン・グラム「麒麟がくる」

席 ¥5,800
A席 ¥3,800
P席 ¥3,300
S席ペア ¥11,000

詳しくはHPをご覧ください▼

2024年9月25日(水) 14:00開演

